東京2020大会
宮城県開催記録誌

宮城県
Miyagi Prefectural Government

「復興五輪」東京2020大会を終えて

宮城県知事

村井 嘉浩

オリンピック・パラリンピック大会史上初の開催延期となった東京2020大会。その原因となった新型コロナウイルス感染症の世界規模での感染拡大は、多くの日本国民に先が見えない不安と今後の社会経済活動に対する閉塞感をもたらしました。

本県では、「復興五輪」が掲げられた今大会の開催を通じて、東日本大震災の甚大な被害に対して世界中から寄せられた支援への感謝の意や、被災地の現在の姿を国内外の方々に直に伝えるという大きな目標がありましたが、このような状況下で「復興五輪」の意義をどのように見いだせるのか、地域に成果を残せるのかという大変厳しい課題に直面いたしました。

その後、1年の延期期間を経て、開催が近づく時期になっても、感染症収束の見通しはたたず、結果として様々な厳しい制約が強いられる中で大会本番を迎えざるを得ない状況となりました。

そのような中にあっても、県としましては、開催に向けた長きにわたる大会関係者の努力が可能な限り実現されるよう、県民の皆様の御理解と御協力を賜りながら、聖火リレーの実施をはじめ、市町が実施する事前キャンプへの支援、都市ボランティア活動などの事業に取り組んでまいりました。おかげさまを持ちまして、聖火リレーについては、津波被害が甚大であった沿岸部を回るルートとし、復興した街の姿はもとより、沿道にて「復興支援に感謝」といった横断幕を掲げた多くの県民の姿を世界に発信することができました。

また、全国の競技会場のほとんどが「無観客」となる中、本県で行われたサッカー競技については、大会組織委員会とともに万全の感染対策を講じることにより、限られた人数ではありましたが、観客を入れての開催となり、オリンピアンの活躍とスタンドが一体となる感動を直に感じていただける機会を県民の皆様に提供できただけでなく、震災発生時に被災者の救援・被災地支援の前線基地として大きな役割を担った宮城スタジアムにも新しい歴史を刻むことができました。

これまでの準備や本番時の運営に携わられた関係者の方々や、様々な活動で御協力いただいた都市ボランティアの方々など、御支援いただきました全ての皆様に改めて心よりお礼を申し上げます。そして同時に、長きコロナ禍にあって、昼夜問わずに県民の命と健康を守るために御尽力をいただいております保健医療従事者や感染拡大防止に御協力いただいている県民の皆様に深く感謝申し上げる次第です。

県といたしましては、コロナ禍においても、様々な関係者が大変な苦労の下に開催された今回の東京2020大会が意義のあるものとして後世に語り継がれることを、さらには、県内に「オリンピックレガシー」と称されるものが今後1つでも多く残るよう、引き続き関係者の皆様の御協力を賜りながら取り組んでまいります。

令和4年1月吉日

CONTENTS

巻頭言（知事挨拶）～「復興五輪」東京2020大会を終えて～

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を振り返って …… 02

大会準備期間 ～気運醸成に向けて～ …… 04

イベント開催 …… 06

広報活動 …… 10

国等との協働事業 …… 12

大会時の取組 …… 14

シティドレッシング（都市装飾） …… 16

オリンピック・パラリンピック聖火リレー関係 …… 20

聖火到着式・復興の火 …… 22

オリンピック聖火リレー …… 30

パラリンピック聖火 …… 40

都市ボランティア（City Cast） …… 44

都市ボランティア（City Cast）の概要 …… 46

ボランティア研修の概要 …… 48

活動実績 …… 52

ホストタウン・事前合宿 …… 56

ホストタウンの取組 …… 58

大会期間中 …… 74

大会開催状況 …… 76

資料編 …… 80

※本文中に掲載している人物の役職・所属等は当時のものです。

東京2020オリンピック・パラリ

公益財団法人東京オリンピック・
パラリンピック競技大会組織委員会
大会運営局会場マネジメント部
会場運営部長
（宮城スタジアム ベニュー ゼネラルマネジャー）
八田　茂

大会の成功に御尽力をいただいた多くの関係者の皆様に、この場を借りまして厚くお礼申し上げます。

サッカー競技が開催された宮城スタジアムは、自転車競技が開催された静岡県会場とともに、一般のお客様を迎えた貴重な競技会場となりました。コロナ禍での難易度の高い大会運営が求められる中、観客の皆様の最大限の協力も得ながら成功裏に会場運営を終えることができ、日本の、そして宮城県の素晴らしさを世界に発信できたと考えています。また、宮城県とは、侃々諤々の議論を重ねながら、会場内外において、実効性のある新型コロナウイルス感染症対策にともに取組むことができました。深く感謝しております。

今夏の大会では、多くのスタッフ、ボランティアの方々が、様々な葛藤を抱えながらも、日々の業務に取組みました。大会運営への関与が進む中で、一人ひとりの責任感、そして成功に向けた強い想いが醸成されたことを会場運営責任者として日々実感することができました。本当に感謝の念に堪えません。

私は、聖火リレーから大会終了まで、様々な形で大会運営に携わっていただいた5,000人を超すスタッフ、ボランティアの方々に残った真摯な成功体験こそが、後世に誇れるレガシーであると確信しています。

一般社団法人
宮城県サッカー協会 会長
大久保 芳雄

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では、被災地の復興と全世界からの支援に感謝を伝える機会として、宮城も会場に名を連ねることになりました。宮城のスポーツ界の歴史に刻まれることになりますので、弊協会としても万全の体制で復興五輪を迎える準備を進めました。プレ大会となる代表戦では、開催に伴う課題も生じましたが、村井知事とJFA田嶋会長とのお力添えにより、無事解決することが出来ました。試合は森保監督の被災地に対する熱い思い、地元出身GKダニエル・シュミットの活躍、期待の新星久保建英の代表戦デビュー等々、近年最高の盛り上がりとともに、五輪開催への自信を深めることが出来ました。

本番の五輪大会はコロナ禍の影響で1年先送りになりましたが、男子3試合女子7試合を開催いたしました。有観客での開催になりましたが、組織委員会の指導の下、安全対策を確実に実施するとともに、協会メディカルスタッフと協力し、感染者をゼロに抑え無事終えることができました。ほっと胸をなでおろすと同時に、スポーツの感動を生み出すのは選手とともにある観客の皆様の力が大きいことを改めて思い知らされた瞬間でもありました。

ポスト五輪では、これまで以上のスポーツ振興に努めるとともに、パラリンピックに学んだインクルーシブなスポーツの発展にも寄与していく決意です。

ンピック競技大会を振り返って

公益財団法人
宮城県スポーツ協会 会長
鈴木省三

東日本大震災から10年の節目の年に、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が「復興五輪」として開催され、多くの成果と感動を残しました。

宮城県総合運動公園では、被災地を駆け抜けた聖火の到着を祝うセレブレーションと、サッカー競技の会場として10試合が開催されたところです。新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、各地の競技会場が無観客となる中、数少ない有観客で実施された会場となりましたが、大会を混乱なく成功裏に収めることができましたのは、関係各位のご尽力の賜物であり、施設を管理運営する者としても、その一翼を担うことができたのではないかと思っております。

各国の代表選手は、コロナ禍の影響を受け、多くの制限がある中、被災地で栽培された芝生の上で素晴らしいプレーを披露し、観客は声援に代わる拍手で応え、会場を大いに盛り上げました。そして、スポーツへの関心の高まりや、スポーツボランティア活動の広がりなど、様々なレガシーが残された大会でありました。

私たち宮城県スポーツ協会は、この「復興五輪」のレガシーを後世に継承し、高めてまいる所存です。

結びに、この記念誌が、宮城県のスポーツの普及・発展に役立つ貴重な資料として広く活用されますとともに、本大会関係の皆様に重ねて感謝を申し上げ、挨拶といたします。

利府町長
熊谷 大

2018年5月、宮城県総合運動公園宮城スタジアムで東京2020オリンピック競技大会サッカー競技が開催されることが決定しました。東日本大震災時に被災地支援の活動拠点となった施設で、「復興五輪」の理念のもと開催されることには、非常に感慨深い思いがありました。

利府町では、オリンピック開催日にJR利府駅から宮城スタジアムまでの道のりを「おもてなしロード」と位置づけ、来町者を歓迎する各種事業を計画していましたが、残念ながらコロナ禍で事業を縮小せざるを得ず悔しい思いをしました。しかしながら、有観客で開催したサッカー競技も町の事業も大過なく終了することができたのは、ひとえに大会の成功に向けご尽力いただいた皆様のおかげであり、改めて心から感謝申し上げます。

あの東日本大震災から10年。これまで国内外からの多くの支援、応援を頂戴したからこそ、被災地はここまで復興することができました。そして、オリンピック・パラリンピックに出場した選手の皆様からは、多くの感動と勇気を頂戴しました。

直接「ありがとうございました」とお伝えすることが叶いませんが、東日本大震災からの復興で得た絆と、オリンピックの感動と勇気を胸に、復興の光を明日へ、未来へしっかりと繋いでいきたいと思います。